



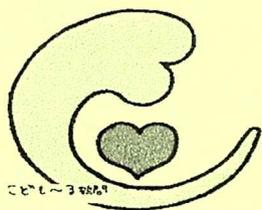
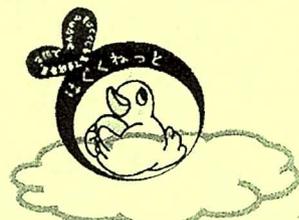
Insta



Mail



URL



こども〜る鶴間

《運営》
認定NPO法人
地域家族しんちゃんハウス

- ☆子育て親子の交流つどいの広場の提供
- ☆子育てに関する相談・援助
- ☆地域の子育て関連情報の提供
- ☆講習会

利用対象者

- ★乳幼児：0～3歳児(誕生日から最初の3/31まで)と親(保護者)
- ★妊婦さん

《お問い合わせ》
電話：090-3685-2288(こども〜るフォン)
場所：イオンモール大和4F(ライトコート側)

9月の予定

日		月		火		水		木		金		土			
前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半		
栄: 栄養士 助: 助産師 看: 看護師 子: 子育てアドバイザー 経: 子育て経験者 絵: 絵本講師		☆こども〜る鶴間のライトはなぜ暗くしてあるかご存じですか? 赤ちゃんの脳活動に最適にしてあるからです。大人は明るいのが良いかもしれませんが、赤ちゃんは違います。光の刺激が強かったり多かたりすると興奮してしまうのです。										保・保	保・経	看・保	保・子
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
保・経	保・経	保・保	保・経	保・保	保・子	保・保	保・経	保・保	栄・経	教・保	保・経	保・保	保・栄		
			育		育										
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		
保・保	看・経	保・保	保・経	保・保	保・経	保・保	保・経	保・保	栄・子	保・教	保・経	保・保	保・経		
	遊び								育						
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
保・保	保・経	保・栄	保・子	保・保	保・経	保・保	保・経	保・保	栄・経	保・教	保・栄	保・保	保・経		
		育	よみ												
24	25	26	27	28	29	30									
保・保	看・経	保・教	栄・経	保・保	保・経	保・保	保・子	保・保	栄・経	保・保	保・経	保・保	保・経		
							育								

保健師による育児相談
A(13:35~16:35)
B(14:00~16:00)

保育士による育児相談
(13:35~16:25)

薬剤師によるクスリの誤飲教室
(14:00~15:05)

発育相談
(14:00~17:45)

管理栄養士による栄養相談
(14:00~17:45)

保育士/ボランティアによる手遊び
(10:30~11:00)

絵本読み聞かせ
a(10:30~10:45)
b(14:30~14:45)

時間表

- ① 10:15~11:45
- ② 11:55~13:25
- ③ 13:35~15:05
- ④ 15:15~16:25
- ⑤ 16:35~17:45

人数の制限もありません♪
(状況により制限の場合もあります)

世の中に子育てほど尊い仕事はありません。私達の未来を創る事であり、未来の幸せを可能にする仕事だから。



～笑顔ではぐくねっと～7月のスキルアップ講座より

「ころころに関心を向ける」



心って誰もが大事にしたいと思っっているけれど、見えないから捉えどころがないから、大事にする仕方も分かりづらい。大事にしようがしまいが、物のようにあからさまに見えないので、パッと見他人は気付かない。さらに“心は感じるもの”などと言われると、一段と難しくなります。しかし、心は言動の根っこにあるものですから、さりげない仕草や言葉から心に関心を向けてみると、読み取ることができます。「心に関心を向ける」ことを意識的に実践することで、日常が少しずつ変化していきます。日常の出来事を例にして、ころころに関心を向ける事について考えてみましょう。

講師

福田 京子さん

ブラーナコーディネーター

として、南林間しんちゃん
の「はぐる〜む」でママ向け講座や、月2
回西鶴間しんちゃん「ころころの会話」と
いう疲れた心に効く講座を開催していま
す。お母さんには朝から晩まで仕事がいっ
ぱい、その忙しさのあまりイライラやキリ
キリしがち。月に一度でいいから、自分の
身体に意識を集中して、自分自身を優しく
抱きしめてあげませんか。「ころころの会話」
はそのきっかけ作りをお手伝いする講座で
す。ご予約はしんちゃんハウス HPかお
電話で。090-5807-5673(タテアイ)



●例えば、美味しいケーキがのっていたお皿に付いた クリームをなめる子どもを行儀が悪いと大声で叱る夫



行儀が悪い、躰の為、子どもの為。子どもと大人の関
係の中で、大人は自分の価値観「こうあるべき」で一方的
に接していることがあります。躰はもちろん親の役割の一つですが、そこに子ども側の気持ちが全く見落とされていることに気づいて見てください。子どもの「おいしかった」「もっと食べたいな」「うれしいな」という、お皿を舐める行為の裏に隠れている気持ちを、躰という力で制することで、簡単に子どもの気持ちを否定することが、子どもを無意識に傷付けている、と考えた事はありませんか？相手の下にある気持ちに気付いて関心を向けて見ると、まずは「そんなにおいしかったんだね、また買おうね」と子どもの気持ちを肯定出来る、その後で「お皿を舐めるのはお行儀悪いから、次は舐めないようにしようね」と伝えるだけで、躰になる。これが心に関心を向けるという事です。

●例えば3人家族のうち夫と娘がケンカを始めた、3人それぞれが快適に暮らすためには

先週頭に一緒に暮らしている50代の娘と70代の夫が急に言い合いをし始めて、何やら険悪な雰囲気。激昂した夫は「お前（娘）がこの家から出て行けば全て丸く収まり、俺は母さん（私）と2人で幸せに暮らせるんだ！」と娘に。それを聞いた私はというと、「いやそれは違うよな、私夫と2人きりになって幸せではない。」と思い、【3人が快適に過ごせる為に】という議題で家族会議を提案予定です。まずはこの会議で、3人それぞれが絶対に嫌な事、そこまで嫌ではない事など発表しあって存在を認め合うことから始めようと思います。一緒に一つ屋根の下で暮らすという事は、とても難しい事です。まずは相手に関心を向ける、そして自分と相手との違いを知る事、そこからコミュニケーションは生まれていきます。相手の事も知らず、自分のしたい事や好きな事だけを押し付けていては、そのコミュニティはいずれ破綻します。



●相手の為に、良かれと思って言った事やった事が、実は“存在の否定”になってやしないか

相手の為にと思って言った言葉でも“存在の否定”は、相手の生きる希望や力をも喪失させてしまう暴力的な行為です。例えば「お前なんかいいやけりゃいいのに」という、あからさまな“存在の否定”の言葉は相手に深いダメージを与えるよくない言葉だと大抵の大人は自覚できますが、「また片づけしてない。いつになったら出来るようになるの」「宿題やらなきゃダメでしょ。何度言ってもできないね」「明日の仕度してないでしょ。そんなことだから忘れ物するのよ。」など、これらも実は“存在の否定”に繋がっています。ジワジワと攻撃し続け、否定し続け、最終的に子どもの中の結論としては最初の直接的な“存在の否定”と同じことになるのです。一般的に人格否定や存在否定の言葉を使う人は少ないですし、言わないように気をつけています。しかし物事について否定的に叱り続けることの弊害について、気づいている親は極めて少数派なのです。子どもや相手の、行動の下にある心の中に関心を向けて言葉を選ぶと、相手の行動も変わってきます。

“存在”とは…



何かが出来るとか、できないという行為とは別に捉えることが非常に大切です。“存在”を大切に
する事は、その人の気持ちを分かろうとする事です。人は誰でも好き嫌いがあります。だからこそ、
互いにそれを知って、その違いを認め合う作業が大切なのです。その為にはまず自分を知る事、
自分の心に関心を持つことが、日常を変化させるきっかけになります。